



編集長「まめこ」の

『まめまめ放浪記』

横山タンス店の横山さんからのご紹介で、
なんと花火屋さんへ取材に行ってきました！
これからの季節が、花火の旬。
あの大輪の花火の下には、どんな花火師がいるんだろう。

株式会社 白井煙火

本社住所 / 〒426-0001 静岡県藤枝市仮宿 1133-1
Tel/ 054-643-8514

「皆、花火が大好きでいいものを作りたいと頑張っています。花火師は冬に何をしているんですかって、よく聞かれるんですけど、一年を通して花火は作っているんですよ。火薬なので湿度に弱いから、冬場は作業するには良い季節なんです。」
そういつて桑原さんは、花火の作り方を教えてくれた。
花火の玉を作るには、「玉皮」という丸い容器を割ったものに、花火の花弁となる「星」を並べ詰める。その内側に「割火薬」と呼ばれる、玉皮を壊し星に点火して四方に飛ばす役割を持つ火薬を詰める。玉皮を合わせ、表面に丈夫な紙を貼って固めたら完成になる。
「スターマインのように沢山連続で上がる花火も人気ですが、日本の伝統技術は、このような単発の花火に活きているので、その技術を伝えていきたいです。」

白井煙火さんの許しを得て、初めて花火の打ち上げ現場に入った。
小さな手持ち花火のようなものを、花火の玉が入っている金属製の筒の中へ放り込む。筒の中にひかれた火薬へ点火した瞬間、衝撃がビリビリと体を伝わった。花火を発射させた筒からは、火花が散っていた。「本当に火薬なんだ」とわかった瞬間、頭上高くで花火が開いた。ドォン…。「綺麗…！」つぶやくと、厳しい面持ちの花火師の表情が、少しほころんだ。
「高校生の時に花火の大会を見に行った時に初めて、大勢の人に一度に感動を与える花火師の仕事はすごいなと思ってたんです。それで、この世界に入りました。」
白井煙火の桑原宏司さんが、ちよとテレながら話してくれた。宏司さんは現在36歳。なんと白井煙火さんに勤めている花火師は、20代30代が殆どらしい。若いなア！

右、白井煙火の皆さん。
下段左が桑原さん。
下、花火の断面イラスト。



白井煙火 花火情報
吉田町港まつり・花火大会 (吉田漁港内) 8/23
土肥サマーフェスティバル (土肥海水浴場) 8/18 ~ 21

お祝いの花火を上げませんか？
例えば藤枝市の蓮花寺池花火大会では、毎年6月に慶祝花火を募集しています。8/7の花火大会で、打ち上げる前に希望のコメントを読み上げてくれますよ！
4寸玉 コメント入りで¥8,000程です。要チェック！



日本の花火は、世界一精巧で華麗だと言われている。球型に出る、星の色が変わる、二重三重の円を描く。この特徴を持つ日本の花火は、花火師たちが精魂を込めて、そして火薬を相手にするという命がけの技術を極めていつて生み出したものなのだ。
「色々と厳しい時代ですが、花火には手を抜きません。いいものはいいと分かってもらえるように、一玉にこめていきたいと思っています。自分たちの自己満足で終わるのでなく、お客さんに感動を与えられる…そういうものを目指してやっていきたい。」
穏やかな笑顔の中に、職人としての意地と誇りが見えたような気がした。とても格好良くつて、…なんだか嬉しくなった。
今年の夏は暑くなりそうだ。花火師にとっても、夏は肉体的・精神的にも厳しい状況におかれる。あの華やかな花火の下には、その極限を越えて打ち上げる花火師がいる。今年の夏は、なお熱くなりそうだ。